

チャレンジコミュニティ



Challenge Community Club

通信 第47号

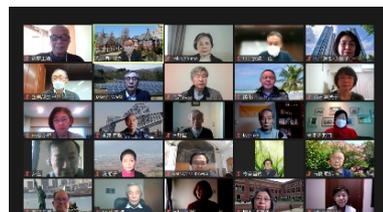
2022.3 vol.47



白金台・ゆかしの杜の桜



活動報告会会場（法廷教室）



活動報告会リモート参加者



第1回学ぶ会会場



14期生リモート講習会



芝CCクラブ活動紹介



明虹会活動紹介



まち歩き東京タワー



14期生ボランティア体験会



高輪地区CCクラブ活動紹介



3Aクラブ活動紹介

CONTENTS ■ごあいさつ

高輪地区総合支所長 産業・地域振興支援部長兼務

山本 睦美

明治学院大学 総合企画室社会連携課長

山田 真嗣

■CCクラブ 2021 年度活動報告会

■ICT 活動

■2021 年度活動報告

（第1回～第3回学ぶ会・まち歩き「港区の坂」）

■2021 年度活動報告(CC大学 14期生対象活動)

■地域CCクラブ活動紹介

■運営委員会報告・活動計画

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さん と共にコロナを乗り越えた未来へ！

■高輪地区総合支所長
産業・地域振興支援部長兼務
山本 睦美

令和元年（2019）年12月初旬に、中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、わずか数か月で世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症は、2年以上たった今もまだ収束する様子も見えず、不安な日々が続いています。手指消毒等の徹底、3密回避などの感染症対策は、人々が親しくふれあい、顔を合わせて会話をしている、コミュニティの機会も奪ってしまっています。



この間、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんの活動も様々な制限を受けてきたことと思います。チャレンジコミュニティ大学自体も、令和2年度は1年間中止せざるを得ませんでした。

しかし一方、感染症対策として積極的に活用されるようになったリモートでの会議や講座の受講など、新しい日常として便利になったこともあります。また、感染症に対する知識や対策も積み重ねられてきた今、「正しく恐れる」こともできるようになってきたと感じています。

区といたしましても、日々新しくなっていく感染症対策の情報をしっかりとつかみながら、地域のコミュニティの活性化に向けた事業を一つでも多く安全に実施できるよう取り組んでいるところです。

チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんも、コロナ禍でもあきらめることなく、できる範囲での活動を、様々な工夫をしながらここまで継続されてきたことでしょう。皆さんの熱い思いと、地道な活動に心から敬意を表します。

新型コロナウイルス感染症を乗り越えた新しい未来に向かって、チャレンジコミュニティ・クラブの皆さんをはじめとした地域の方々と共に、「誰もが住みやすく・地域に愛着と誇りを持てるまち・港区」の実現を目指します。今後とも、ご支援、ご協力の程よろしくお願ひします。

2年越しの繋がり

■明治学院大学
総合企画室社会連携課長
山田 真嗣

14期生の皆様、修了おめでとうございます。早いもので、このCC通信が発刊される頃は、修了式の後となります。私にとって14期生の皆様は、配属が同時期でご入学から携わらせていただいたため、親近感を感じておりました。



皆様は令和2年度（2020年度）が中止になったこともあり、2年越しのご入学（47名）となりました。お待たせしただけに、これまでと極力同じように実施しようと試みましたが、コロナ禍にて変則的となり、十分な対応が出来ず心苦しく感じる事が多くありました。

特に校外実習や演習は大幅な変更を余儀なくされました。そんな中でも、印象深いものがいくつかございます。「港区議会棟見学」では議員席や議長席にお座りになる皆様のなごやかな表情が拝見でき、こちらまで嬉しかったです。「美術館見学」は中止となりましたが、代わりに一般に非公開中の本学礼拝堂などを見学していただき、喜んでいただきました。また、「自然探索」（横浜キャンパスと舞岡公園へ）では天候にも恵まれ、自由参加にも関わらず、30名もの方々がご参加くださいました。約7,000歩を一緒に歩くことができ、参加された方々とゆっくりお話もできました。こちらまで心も体も健康になった一日でした。

マスク越しでしたが授業前などに、ご挨拶やお話ができることがささやかな楽しみでした。

皆様方が、今回の出会いをきっかけに、地域コミュニティの仲間作りをより広げていただけますと幸いです。新たにCCクラブのメンバーとしてこれからご活躍されるのが今から楽しみです。修了生として公開講座やプラチナカレッジにも是非ご参加ください。お待ちしております。明治学院大学は皆様のもう一つの母校です。また、お会い出来る日を楽しみにしております。

CCクラブ2021年度活動報告会

2021 年度活動報告会は新型コロナウイルス感染者が多数いるなか、2020 年度同様全てリモート参加で行うことになりました。2月26日(土)13時30分～17時15分で発信場所を明治学院大学法廷教室、応接室、発表者そして講演者の自宅にて行われました。参加者はリモートと会場合わせCCクラブ会員が60名で関係者を含めると74名でした。

リモート活動報告会に参加できなかった会員の皆さまも、CC通信の抜粋記事と同時に当日発表画面などの詳細についてはホームページで当日の内容をご覧ください。

代表と来賓の挨拶

冒頭にCCクラブ代表が挨拶し、来賓の方より挨拶をいただきました。

CCクラブ石川啓子代表(8期)からは、本日の活動報告会は昨年同様リモート形式になりましたが、多くの方に参加いただいたこと、今年度のCCクラブ活動に協力いただいた港区、明治学院大学、社会福祉協議会、ラクっちゃ、ういケアの皆様にお礼しますとの挨拶がありました。

明治学院大学副学長永野茂洋様からは、2021年度CC大学がコロナ禍で苦心しながらも2月24日に無事に全授業を終え、3月12日に修了式を迎えることが出来る、との紹介がありました。

港区高輪地区総合支所長山本睦美様からは、コロナ禍におけるCCクラブの活動に対する評価とCC大学15期生募集に対する感謝などの挨拶をいただきました。



左から石川代表、永野副学長、山本支所長

運営部門報告

チャレンジコミュニティ・クラブ代表

石川啓子

(1) 2021年度概要

現在の会員数は672名(芝地区106名、赤坂・麻布・青山地区155名、高輪地区273名、芝浦・港南地区124名、その他地区居住者14名)です。一方任意加入の地域CCクラブは芝CCクラブ76名、明虹会110名、高輪地区CCクラブ211名、3Aクラブ122名で



す。運営方針と活動テーマはコロナ禍で2020年度を継承しましたが、CCクラブ内のコミュニケーションを良くし、多くの学びを生かした自己実現を支援しました。

(2) 活動実績

運営委員会では討論の時間を増やし、「CC大学、CCクラブを考える」、「運営委員の選出基準」について、そして「2022年度活動計画」について検討しました。5つの部会活動についてそれぞれのテーマを紹介しました。

続いて年間の活動に移り、定期総会(書面議決報告会)、ホームカミングデイ(講演会)、第1回から第3回の学ぶ会、企画部主催CCクラブまち歩き「港区の坂」を写真と合わせ紹介しました。明治学院大学との連携では、14期生に対するリモート講習会、1Day for Othersを始めとした活動、社会福祉協議会のオンラインツール講座での連携を始めとした港区、社会福祉協議会、港区立介護予防総合センター(ラクっちゃ)、港区立がん在宅緩和ケア支援センターとのつながりについて説明し、報告を終わりました。

地域CCクラブ活動報告

芝CCクラブ

活動は10年以上継続実施しています。月一回の定例会とLINEの連絡網で区の情報共有をしています。芝みたまち倶楽部年6回、アドプト活動2回、パーキンソン病友の会支援は月に1回程度行いました。

新井隆治(3期)



明虹会

総会はメール、月例会はリアルとZoomで行いました。協働・参画の活動としてベイエリア・パワーアッププロジェクトの活動、独自企画は交流

斎藤正精(6期)

イベントとして日本舞踊と伝統文化の講演を行いました。ベイエリア講座と運河クルーズが予定されています。



高輪地区CCクラブ

6地域の連絡網で「コミュニティカフェだより」をはじめとして随時情報伝達をしています。三つのコミュニティカフェを中心に地域のつながりを大切に実施しています。ボランティア活動としてはフードドライブとかんがりの実施と高輪地区生活安全・環境美化協議会に正式加入し3回のパトロールに参加しました。

太田則義（7期）



3Aクラブ

設立8年目をむかえライン部門を立ち上げました。3A独自のSDGsを追及するという一年でした。サロン麻布にてクラブのメンバーが講師となり講演会を実施し、メンバー双方にとって有意義でした。ラインによる投稿が毎日あり、ラインネットワークづくりの大切さを確認しました。

佐井有美子（4期）



タワーマンションでの老人クラブ活動

内田夕貴子（13期）

互いに親睦を図り、明るく、楽しく、面白く、生き生きと生活すると共に、社会活動にも貢献する。



○活動方針

- ・趣味や知識を生かして友人を増やす
- ・みんなで楽しく適度の運動で体力維持
- ・会員同士が絆を深め、助け合い、毎日を笑顔で暮らす

○主な活動

- ・サロン開催
- ・講習会・セミナー
- ・独自イベント
- ・自治会イベント
- ・区老連イベント
- ・港区イベント

○まとめ

ウェルコミュニティの会の設立から、順調に活動した初年度、突然のコロナの流行による自粛生活の中、万全の対策の上、できるだけサロンやイベントの開催を目指しましたが、やむなくの活動休止。

一日でも早くコロナが終息し、私たちの目的であるウェルコミュニティに参加することで、友人を増やし、“絆”を深め、助け合い、毎日が笑顔で過ごすことができるように活動したいと思います。

大切なことは、私たち自身も楽しむことであり、肩の力を抜いてできることを継続することだと思います。

自主活動グループ活動紹介

なぎさサロン

高野建二（12期）

高齢者の孤立を防ぎ、健康寿命を延ばすため高齢者に外に出る習慣を付けてもらおう。



○毎回のなぎさサロンの主な内容

- ・みんなといきいき体操
- ・連絡事項や情報提供
- ・簡単な講座
- ・おしゃべりタイム
- ・歌

○コロナ禍での変化

- ・参加者の減少
 - 会場の確保が困難⇒開催の中止、参加することへの心配、ポスター、リーフレット数を削減
- ・イベントに対する制限
 - 物理的距離の制限、発声を伴うイベントができない、飲み物提供の制限、お菓子などが食べられない

みなと外遊びの会「その後のご報告とこれから」

曾木紀代子（10期）

どんな時であっても、子どもにとって遊ぶことは生きることそのものであり、遊びを通して自分の世界を広げ一日一日育っていく存在です。



私たちは、プレーパークの開催を通じて、短い時間でも外に出て身体を動かし、やりたいことに挑戦できる機会をつくり続けることを行っています。

2022年度は、みなそとの目標を見据えて、「多くの子どものも大人も遊べる曜日と時間帯」→

『日曜日』・『毎週』、「親子同伴の小さい子どもが遊べる曜日と時間帯」→「月曜日と火曜日」・『毎週』・「お昼寝前の午前中」、「小学校の下校時間が早い曜日の時間帯」→「水曜日午後」・『毎週』と設定し、プレーパークの来場者を増やす挑戦をしています。

子どもの遊びを真ん中にした地域コミュニティづくりのご支援をお願いします！

- ・公園に遊びに来てください！
 - ・サポーターになりませんか？
 - ・正会員で運営に参加しませんか？
 - ・賛助会員で運営支援をお願いできますか？
- ご連絡ください。

バリアフリーマップ作成事業

岩佐徳太郎（9期）

高齢者、障害のある方、乳幼児をお連れの方等が安心して外出できるよう、区内の公共施設や交通施設、道路、公園、公衆トイレ等のバリアフリー設備等を現地調査し、区内のバリアフリー設備の情報を港区のホームページで紹介しています。



この活動は、月に1、2回程度、実際に車いすに乗りながら、歩道の幅(車いす、ベビーカーが通れる幅)を測定し、坂道の角度、音響信号、点字ブロックの敷設、多目的トイレなどの有無等を現地調査する活動です。

本調査の特長

- ・本調査に参加・体験することにより、高齢者や障害者等の移動困難な状況が分かり、バリアフリーの必要性が分かる。
- ・実際に車いすでの移動・介助の仕方が分かる。
- ・本調査に参加したことにより、区のホームページや冊子に掲載され成果が見える。
- ・本調査は月に1、2回程度、約2時間の調査です。調査区域は港区内です。

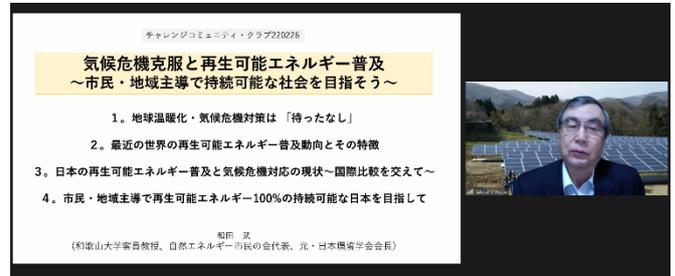
講演会

講演会は15時30分より始まり1時間15分の熱い講演で、質疑応答後、17時15分に終了しました。

冒頭、今回の講演者の和田武先生を紹介いただいた河合克義明治学院大学名誉教授・CCクラブ顧問より和田武先生の経歴と現在の活動を紹介いただき、講演会は始まりました。

この講演会の内容については会報部会で作成し、和田先生に確認していただきました。

気候危機克服と再生可能エネルギー普及 ～市民・地域主導で持続可能な社会を目指そう～ 和歌山大学客員教授、自然エネルギー市民の会代表、元・日本環境学会会長 和田 武様



1. 地球温暖化・気候危機対策は「待ったなし」

地球温暖化防止は待ったなしの段階で、大気中のCO₂の濃度推移も地球気温も自然ではありえない変化を示している。CO₂濃度は産業革命前の270～280ppmから現在は410ppm以上に増加し、地球気温は約1.1℃上昇している。これまでのCO₂排出が続けば21世紀末に4～6℃の気温上昇が予測され、人類生存の危機が襲来する。

気温上昇がもたらす影響は様々あるが、その中でも本格的な不可逆的破壊が進行し始めると、地球は破滅的狀態へ向かう。2℃上昇でもその危険があり、気温上昇を1.5℃未満への抑制が不可欠である。国際社会は、COP26の「グラスゴー気候合意」で21世紀の気温上昇を1.5℃に抑制する目標を追求する方針を決めたが、各国が温室効果ガス排出削減目標を達成しても2℃前後の上昇が予測され、今後、さらに高い削減目標と対策強化が必要である。日本も2030年の排出削減目標を50%以上にすべきである。

2. 最近の世界の再生可能エネルギー普及動向とその特徴

世界の再生可能エネルギー動向は発電分野を中心に再生可能エネルギーが急増し、コロナ禍の2020年度は史上最高の増加だった。中でも途上国での再エネ普及が急増し、全世界で普及が進展した。再エネのコストが低下し、従来電源(火力発電や原発)と同程度からより安価になりつつある。市民・地域主体による再エネ普及が増加し、再エネ中心社会を目指す動きが拡大し、再エネ電力を拡大、電化率を高め、熱や輸送分野も電力での供給比率

を高める戦略が進んでいる。多数の国、自治体、企業等が再エネ 100% (RE100) 等の高い普及目標を掲げ、RE100 宣言した国は 53 カ国で、多数の有名企業も RE100 を目指している。

最近、デンマークやドイツの取り組みから学び、世界的に市民・地域主体による太陽光発電、風力発電、水力発電等の再生可能エネルギー普及の取り組みが増加しつつある。アメリカで増加している人々が参加しやすいコミュニティ・太陽光発電も参考になる。

3. 日本の再生可能エネルギー普及と気候危機対応の現状～国際比較を交えて～

OECD 主要国の 2020 年のエネルギー供給量中の再生可能エネルギー比率は、デンマーク (43.6%)、ドイツ (17.8%)、イギリス (15.1%) で飛躍的に増加しているが、日本は 8.2% と最低レベルである。理由としてドイツやデンマークでは積極的普及政策や市民・地域主体中心の普及方法と普及促進による多くの社会的影響の結果、再エネ普及促進への国民の支持率が高く、先進的政策を採用しやすい状況になっている。

一方、日本では再生可能エネルギー普及への逆風、抑制、原発重視の動きがある。普及方式では、国民負担で企業が利益を得る方式では反対や批判が多く、市民・地域に利益が還元され、地域社会が自立的に発展する方式を主流にする必要がある。

4. 市民・地域主導で再生可能エネルギー100%の持続可能な日本を目指して

再生可能エネルギー普及における市民・地域主体の重要な役割として、市民・自治体・生協・市民団体・地域企業等の地域主体は、エネルギーの生産者、供給者、消費者として、また民主社会の主権者として、積極的に再生可能エネルギー普及の担い手になることで、持続可能な社会を実現することができる。

おわりに

日本の温暖化防止、再エネ普及を推進する政策強化を求めるとともに、エネルギーの生産者、供給者、消費者として、そして主権者として、持続可能で平和な社会を実現しよう。

地球のことを考え、地域で行動しよう！

Think globally, act locally!

未来のことを考え、いま行動しよう！

Think of the future, act now!

企画部会では 6 月に“ICT お助け隊”を立ち上げました。目的はオンライン化を始める方への支援と将来的にはオンライン化の啓蒙です。藤井宝企画部会副部会長が隊長になり、企画部会員、役員で推進しています。

Zoom 講習会

2021 年度も 2020 年度に続き企画部会では会員対象の Zoom 講習会を行いました。今年は運営委員を中心に行いましたが、コロナ感染者が増大したためたびたび中止になりました。会員に対する Zoom 講習会は一巡したため、とりあえず中断しています。

地域に対する ICT 講習会も行い、三田 2 丁目一交会 (町会) と芝浦地域のコープみらいに対し、Zoom 講習会を行いました。

社会福祉協議会、JAL インフォテックとの協働活動

2022 年 1 月 14 日 (金) と 2 月 15 日 (火) に港区社会福祉協議会が主催し講師役に JAL インフォテックを迎え CC クラブが協力し、「知っておきたいプロに学ぶ！オンラインツール講座」を開催しました。

内容は①パスワード作成のコツ②Zoom のセキュリティ③Wi-Fi 機器について④詐欺メール対策でそれぞれ 90 分でした。初日は会場に 25 名、リモートに 30 名が参加し、2 日目はリモートだけの開催になり 45 名が参加しましたが、会場開催については 4 月に行うことになりました。



10 名のスタッフが参加した麻布区民協働スペース

また、今年もなかの生涯学習大学 ICT チームとの意見交換会を 7 月 20 日 (火) に行いました。

2021年度CCクラブ活動報告

第1回学ぶ会(7月7日)

日時：7月7日(水) 14:30～16:00

場所：白金台ゆかしの杜 港区区民協働スペース

講演者：みなと図書館長・郷土歴史館長江村信行様

テーマ：港区の歴史と地域文化(総論)～コミュニティから港区を捉

える～

参加者：会場 30名

(含スタッフ)とリモート

(Zoom)

参加者 42名、CC

大学14期生19名が

会場とリモートで参加しました。



講演者の江村信行館長

今回のテーマは広範囲な内容で64画面の資料が、会場参加者にはプリントで配付、リモート参加者にはデータで送信されました。

冒頭、石川啓子CCクラブ代表が講演者への御礼の挨拶、そして河合克義CCクラブ顧問(明治学院大学名誉教授)からは、この時期に学ぶことの大切さと、この会の意義についてのお話がありました。司会の平田渥美企画部会長が講演者江村信行様の経歴を紹介し、講演会は始まりました。

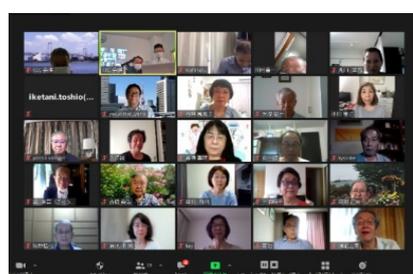
講演内容は、港区の基礎データ、近世から近代(地域経済、産業、沿岸漁業などの近代化)への変遷、地域文化(芝浦、海岸、ロフト文化)、巡検、実地踏査に向けての多岐にわたる内容でした。

短時間で大変豊富な内容でしたが、講演終了後に会場とリモートの参加者と講演者との質疑応答があり、第1回目講演会は終了



会場の参加者

しました。今回の講演会を開催するにあたり開催



リモート参加者

日をCC大学の授業のある水曜日に設定し、多くのCC大学生が会場とリモートで参加しました。

第2回学ぶ会(9月22日)

日時：9月22日(水) 14:30～16:30

場所：白金台ゆかしの杜 港区区民協働スペース

講演者：元港区教育委員会学芸員 松本健様

テーマ：港区の坂と地形

参加者：会場28名(含

スタッフ)、リモート

が(Zoom)22名、

今回もCC大学14期

生5名が会場とリモ

ートで参加しました。



熱い口調の松本健さん

前回同様に平田渥美企画部会長の司会で始まり、石川啓子代表が挨拶し、河合克義CCクラブ顧問(明治学院大学名誉教授)が松本健様の現在の活動内容を紹介しました。

今回のテーマは「港区の坂と地形」でしたが、第1章として「坂とは」のテーマから始まり、第2章として、23区の中の港区(130ヶ所)と文京区(127ヶ所)の坂の多い二つの町の比較がありました。中央区、葛飾区、江戸川区には坂がありません。「なぜ坂に名前がついたか」、「坂の名前の付け方」、港区と文京区の坂の違いについて話が進みました。

第3章は「画像で見る港区の坂のあれこれ」として6つの坂について、地図と江戸時代からの写真を使用した坂の変遷の説明がありました。(1)愛宕神社男坂、(2)紀伊国坂、(3)葵坂、(4)切通坂、(5)柘榴坂と綱坂が紹介されましたが、いずれも馴染みのある坂で、興味深く聞くことができました。



満員の会場

特に松本様の実証した柘榴坂と綱坂の名称間違いの説明には思いを持って聞いていた方が多かったです。

約1時間30分の講演後、会場とリモートで多くの方から質問があり、丁寧に答えていただきました。最後に、今回の坂にちなんだまち歩き(男坂、切通坂と周辺観光スポット)の企画が紹介され、講演会は終了となりました。

第3回学が会(11月18日)

11月18日(木)14時からゆかしの杜協働スペースに28名、リモートに6名が参加して、平田渥美企画部会長の司会で第3回学が会が開催されました

講師として港区高輪地区ふれあい相談員松田綾子様



資料を見せて講演する松田さん

がコロナにおける高齢者の生活の変化と課題～高齢者福祉と地域活動のこれからを考える～をテーマに講演をしました。ふれあい相談員の訪問対象、活動内容、コロナ前の高齢者の課題から話が始まりました。コロナ時の課題として①コロナへの恐怖心警戒感人がそれぞれであり、以前のように活動に取り組んでいる人もいれば、コロナへの恐怖心や抑うつ状態から抜け出せず、これまでの活動が取り戻せない方もいる。②ステイホームに慣れしてしまった人も多く、今まで毎日のようにボランティア活動や仕事等社会参加をしてきた人が、度重なるステイホームに慣れて当たり前になっている人もいることを挙げました。

最後に、ニューノーマルな社会参加を目指して、コロナ禍での活動に対して、思いは様々であるが、参加のニーズに対し幅を広げる必要性が出てきたこと、参加者は少ないかも知れないが活動の場があることが大切、と締めくくりました。

参加者からの活動紹介に移り、白金台いきいきプラザ麻雀サロンの大竹さん、なぎさサロンの高野さん、読み聞かせ活動の久津さん、芝浦高層マンション老人クラブの内田さんなどがコロナ禍におけるそれぞれの活動の紹介をしました。その後港区社会福祉協議会加藤さん、港区介護予防総合センター(ラクっちゃ) 栢堀さんからそれぞれの取り組みの紹介がありました。最後に岡本多喜子先生と河合克義先生から講評があり会は終了しました。



熱心にメモをとる会場の皆さん

企画部主催CCクラブまち歩き

「港区の坂」(10月28日)

10月28日(木)10時から第2回学が会(講師 港区教育委員会学芸員松本健様)のテーマにあつた港区の坂と地形を基にしたまち歩きの会が行われました。

10時に虎ノ門駅に集合し、参加者28名とスタッフ9名が3つのグループに分か



スタート前にコース説明

れ、今回の企画を作成していただいた「芝の語り部」のCCクラブ会員の方3名の引率によりスタートしました。

コースは次の通りです。

虎ノ門駅→文科省前外堀石垣→金刀比羅宮→汐見坂(上り)→霊南坂(上り)→江戸見坂(下り)→愛宕山男坂(上り)→NHK放送博物館→坂(下り)→青松寺→切通坂(上り)→オランダ大使館→永井坂(下り)→東京タワー(集合写真)

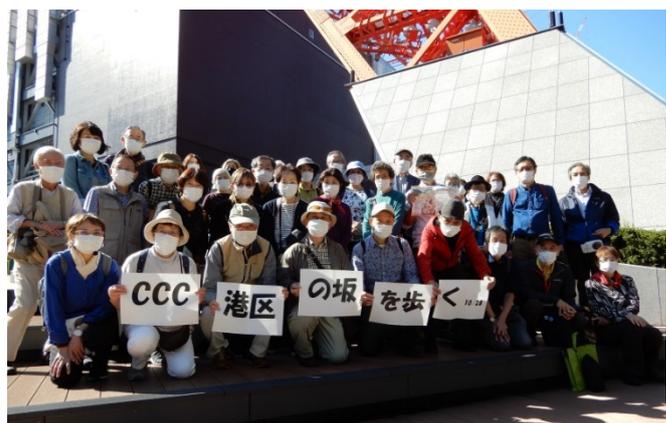
各ポイントで芝の語り部会員の丁寧な説明に新しい発見をしながら、会員同士の親睦も深め合う時間でした。愛宕神社の男坂では階段を上る会員とエレベーターで行く会員に分かれ神社を目指しました。



愛宕神社男坂を上る会員

最終到達場所は東京タワーでしたが、アンケートに答えた結果は、皆さん満足した回答のようでした。

最後に皆さんで記念写真を撮り、天候に恵まれたまち歩きは無事終了しました。



東京タワーを背景にした記念撮影

CCクラブ活動報告(CC大学 14 期生対象活動)

14 期生対象のZoom講習会

9月15日(水)午前と17日(金)午前、午後にCC大学14期生に対して明治学院大学社会連携課主催のZoom講習会が1357教室と1358教室で3グループに分かれ行われました。

この講習会を開催するにあたり、企画部会を中心に約3カ月間内容を検討し、テキストは社会連携課作成の「Zoom利用方法〈はじめて利用される方〉」、企画部会が作成した「Wi-Fiの設定の仕方」、「14期生へのZoom講習会資料(パソコン、追加編)」、そして「14期生へのZoom講習会資料(iPhone、追加編)」を使用しました。

当日、1357教室では会場参加者が集まり、Wi-Fiの設定の仕方からZoomの基本的な参加の仕方を、1358教室では自宅から参加した方にさらに細かい使い方を説明しました。



会場ではCCクラブ協力者の紹介

参加者は3回で教室参加者24名とリモート参加者10名で、CCクラブ側は教室対応が述べ19名、リモート参加者が述べ7名でした。

14期生は積極的に取り組み今後の非常時の授業にも生かせる環境になりました。



リモート参加のCC14期生とICTお助け隊

14期生対象 1Day for Others

地域連携部会では、2019年度に行った明治学院大学生対象の1Day for Others(1日だけのボランティア体験活動)を今年度はCC大学14期生版として計画しました。

CCクラブ会員から自主活動グループの協力募集をし、4グループの協力を得て実現しました。

① プレーパーク(みなと外遊びの会)

10月17日(日)に高輪森の公園で見学会として1名が参加し、スタッフから活動内容の紹介や子どもの遊びを見学しました。11月1日(月)の体験会には2名が参加し、スタッフと一緒に子どもの遊びを支援するなどの体験をしました。



② なぎさサロン(港区広域サロン)

11月11日(木)芝浦協働スペース会議室でのサロン活動に1名が準備から終了までスタッフ4名と一緒に活動を体験しました。サロン時間の間は参加者と一緒に活動を楽しみました。



③ みなとパーキンソン病友の会支援活動

11月14日(日)芝1丁目の港区障害保健福祉センター(ヒューマンぷらざ)にて行われたみなとパーキンソン病友の会定例会支援活動にCCクラブ会員7名と一緒に1名が参加し、支援活動を行いました。



④ 港区バリアフリーマップ作成事業

12月16日(木)虎ノ門駅に集合し、六本木一丁目駅までのコースで社会福祉協議会が主催するバリアフリーマップ作成事業の現地確認作業に3名が参加し、路上の点字ブロックや多目的トイレの実態を調査しました。



各活動ともに限られた時間のなかでしたが有意義な活動であったとの感想が寄せられました。

地域CCクラブ活動紹介

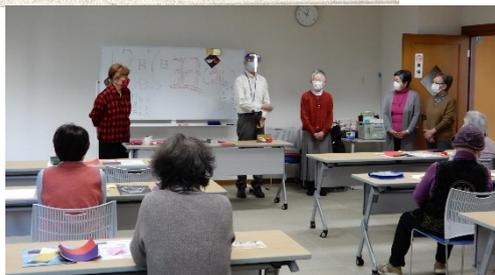
芝CCクラブ 関連団体と連携した定例会議

芝CCクラブの定例会（毎月第3月曜日）に、当初より芝地区高齢者相談センター、港区社会福祉協議会、4月の総会時にはプラス港区介護予防総合センター（ラクっちゃ）、東部在宅支援センターにも参加を依頼しています。

自主活動（アドプト、みなとパーキンソン病友の会支援活動、芝みたまち倶楽部）にも参加いただいています。



私たち高齢者にとってこれらの人たちとの繋がりが、顔合わせ、そして新しい港区の情報をお知らせしてもらうことが大切だと思うからです。私たちが自分の問題が発生した時に、どこにもコンタクトがないと、どこに行ったら良いか、誰に相談したら良いか、分からないのではないのでしょうか？そのような時、必要となる相談窓口です。今後、益々高齢化して行く私たちにとって、重要な仲間だと思っています。



写真：（上）芝コミュニティはうすでの定例会
（中と下）港区関係者も一緒の本芝公園でのアドプト活動と芝みたまち倶楽部での折り紙講習会

高輪地区CCクラブ HUG高輪ミニ講演会

高輪地区CCクラブではHUG高輪で2016年5月よりミニ講演会を開催し、2021年11月で35回を行いました。毎回第3火曜日に行っており、ミニ講演会のない月には季節に合わせた会員が集まるカフェも行っています。

2020年3月からは新型コロナウイルス感染拡大により中止が続きましたが、2020年9月からは感染症対策をしながら状況に合わせて断続的に開催しています。2021年度の活動について紹介します。

今年度はすべて会場とリモートで開催しました。

- ① 4月20日講演者：どんぐりの会の3名の方、
テーマ：どんぐり児童遊園のできるまでとその後の活動について、参加者：会場18名、リモート4名（地域の方7名）
- ② 9月20日講演者：高輪地区総合支所協働推進課大船博係長、テーマ：マンションの防災
参加者：会場20名、リモート7名（地域2名）
- ③ 11月16日講演者：中島博氏（12期生、芝の語り部）、テーマ：忠臣蔵の女性たち～男の歴史の中に、凜と生き抜いた女性たちがいた～
参加者：会場20名、リモート2名
9月までは会場参加者にはペットボトルを提供しましたが、11月からは感染症対策をして、コーヒーの提供を再開しました。



9月ミニ講演会



11月講演者とコーヒーが提供された会場

明虹会 秋の地域交流イベント ～伝統文化を伝える～日本舞踊と講演～

チャレンジコミュニティ・クラブ明虹会主催、赤坂一期一会プロジェクト共催、港区後援で11月13日(土)芝浦の港区立伝統文化交流館にて恒例のイベントが開催され、一般の方を含め49名の参加がありました。

第一部は、日本舞踊「令和薫風抄」藤間由伎娘さんと「常盤の庭」花柳舞麻さんのお二人に、師匠の花柳玉舞先生がこの会のため編集されたものを踊ってもらいました。「令和薫風抄」は新元号のお祝いの気持ちを込めたもので、「常盤の庭」は江戸高輪から芝浦にかけて四季の景色を詠った曲で、参加者から拍手喝采を受けました。



第二部は、「人の絆からひもとく年中行事」と題して位野花克自さんから講演いただきました。そもそも年中行事は、子供と商売(商い)に関わりがあるということ。1月は、正月休み・恵方詣り。因みに京浜急行で最初の路線は川崎～川崎大師間で「初詣・恵方詣りは京急で川崎大師へ」と宣伝し商いにつなげました。なるほど！3月節句は、五節句(五節供)の一つで子どもと親族でお祝い。4月は花見、染井吉野はクローンだから同じ時期に咲くのだという話。以降12月師走まで、人と神・祖先・家族・地域等の結びつき、歳事(歳時)を解説いただきました。



今回のイベントは、日本舞踊と講演でしたが、アンケート結果は参加者の多くから「とても良かった」と好評でした。



(13期 石井知恵子)

3Aクラブ コロナ禍でも盛り上がった チャレコミ講座やライン交流

当クラブでは毎月、定期的にサロン麻布を開催していますが、本年度はコロナの感染対策を意識しながら特に次のイベントを実施しました。

その一つにCCクラブ名に因んだイベント“楽しい3Aチャレコミ講座・マスクも使って楽しく歌う！”があります。3年目に入りますこの講座は、麻布区民センターと3Aクラブとがコラボ企画として開催している評判のヴォイストレーニング講座です。昨年は残念ながらコロナ禍で延期しましたが、今年1月(3回)に広い区民ホール(237人定員)を使い、応募・抽選を経ての参加者33名のびのびと声を出して楽しみました。感染対策もバッチリできて安心のひとつときでした。

この講座企画にあたっては、快く引受けいただいた講師や広い会場を提供いただいたセンターなど多くの支援によって成り立っています。そうした活動は私たちのみでは限界があるため、周囲の関係者と普段から気軽に声を掛け合う穏やかな間柄にしておくことが大切だと思いました。



麻布区民ホールでのチャレコミ講座

もう一つは、会員の発想から生まれたネットアプリ・LINEによるグループ広場「ライン麻布」です。このツールでの交流は、場所を選ばず手軽に情報交換できるため、参加の会員が毎日魅力的な画像やメールを交換して楽しんでいます。



笑顔の例会(サロン麻布)

(6期 川上利春)

■運営委員会報告

2021年度運営委員会は昨年度から引き続くコロナ禍と「どのように折り合いをつけて会員の活動を支援していくか」が、大きな課題でした。

運営方針と活動テーマは昨年度のものを継続し、対面活動に限界のある中、会議にリモートを使い現実に即した活動を心掛けました。7月までは「CC大学・CCクラブを考える」を運営委員の皆さんが議論をして明治学院大学と港区に提出しました。9月、10月は「運営委員の選出基準」を検討し、運用細則の変更をしました（HPでご確認ください）。1月、2月は2022年度のCCクラブ活動計画を議論してきました。

活動報告会の各部会報告にありましたようにコロナ禍でできることを広げていきました。企画部会が中心に行った「ICTお助け隊」の発足。これによって14期生、社協、地域とも連携ができました。「学ぶ会」の発足。多くの会員が港区について学びを深めまち歩きで体感しました。港区の高齢者の生活の変化と課題についても考えました。地域連携部会の「1Day for Others」CC大学版はボランティア活動に14期生が目を向ける一助になりました。私たちは会員の一人ひとりを大切にCC大学での学びを生かしていけるように支援し続けます。

運営委員、部会員の皆様、一年間ありがとうございました。活動報告会に参加された多くの方から「元気をもらえた」と評価いただきました。2022年度運営委員、部会員の皆様、コロナ禍始め社会情勢は日々変化しています。昨日と同じ日は来ません。新しいチャレンジも多くなります。一緒にCCクラブを発展させていきましょう。（代表 石川啓子）

2022年度CCクラブ 第7回定期総会 ホームカミングデイ（予定）

今年度の定期総会、ホームカミングデイを以下の日程で計画しています。

2022年6月18日（土）13:30からを予定

場所は明治学院大学白金キャンパス内とリモート（Zoom）を予定

○CCクラブ第7回定期総会

○ホームカミングデイ

開催形態などの詳細は決定次第皆様にお知らせ致します。

編

編集後記文面を振り返ってみますと、チャレンジコミュニティ通信第43号(2020.3 vol.43) 以来コロナ禍という言葉に触れない年度はなく、このコロナ問題が発生し

集

てからはや2年半を経ています。収束の気配も見せず今日に至っております。

後

今回は、港区高輪地区総合支所長山本睦美氏、明治学院大学総合企画室社会連携課長山田真嗣氏のご挨拶をいだとともに、CCクラブ活動報告と地域CCクラブ活動紹介を主に掲載させていただきました。

記

我々会員が一堂に集まる総会や活動報告会も書面会議・Zoom会議となっております。物足りなさを感じますが、企画部会のように「学ぶ会」ではZoom利用して多数の参加を得ているところもあります。（10期 瀬能 正実）

（表紙の花の写真は9期平尾恭一さん提供）

チャレンジコミュニティ通信 vol.47 2022年3月31日発行

発行者 チャレンジコミュニティ・クラブ

事務局 明治学院大学 総合企画室社会連携課

(株式会社明治学院サービス)

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel. 03-5421-1555 Fax. 03-5421-1556

Email ccclub@meijigakuin-s.co.jp

<http://www.minato-ccc.jp>

会報部会

部会長 瀬能 正実 (10期)

副部会長 境 静子 (10期)

副部会長 中満 美紀 (11期)

部員 古橋 義弘 (1期)

部員 榎本 和夫 (7期)

部員 太田 則義 (7期)

部員 佐藤 芳男 (11期)

部員 鈴木 興雄 (11期)

部員 岩出 好枝 (12期)